

令和4年度

# 新野東小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけ、自ら考え、判断し、表現することができる子どもを育成するための指導の充実
- 学習習慣を身につけさせ、根気強く課題に取り組むことができる子どもを育成するための指導方法の工夫

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	石田 早人
宮本 和美		教頭	建島 真紀
		研修主任	山中 史江
		教務主任	宮本 和美

校長

石田 早人

## ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前学年で身につけるべき基礎的基本的な知識・技能がほぼ身につけている児童が多い。 ●今の学習に既習の知識を十分に活用できていない児童がいる。	・基礎的基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・タブレットを使って、自分に必要な既習の内容を復習することができる。	・ミライシード等、タブレットアプリを効果的に活用し、既習内容の復習を行う。 ・タブレットを用いて反復学習を行い、基礎的な言語能力や計算力を身につけさせる。	・タブレットドリルを活用し、児童が自主的に自分に必要な復習内容を選び、学習できるシステムを、各学級でつくる。	・隙間時間にタブレットを使って、ドリル学習やローマ字入力の練習を、自らするようになってきた。 ・宿題とは別に、自主的に学習する習慣ができた。 ・NHK for schoolの番組を自分で選んで視聴し、学習に生かすことができた。	・自主的に自分に必要な復習内容を選び、学習する習慣を定着させるために、朝の活動や自主学習でのタブレット活用を増やす。 ・与えられた課題だけでなく、自分で課題を見つけて取り組む力を育てる。

### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○根拠や理由を明らかにした発表ができるようになってきた。短い言葉であれば、積極的に表現できる。 ●自分の考えを順序よくまとめて書く活動には課題がある。 ●長文読解が苦手な児童が多い。	・目的に応じてタブレットを効果的に使い、自分の考えを書いて表現することができる。 ・最後まで長文を読み、内容を理解することができる。	・ペアやグループになり、自分の意見を話す活動を多く取り入れる。 ・書くことや読むことに積極的に取り組むことができるよう、自分の考えを書く機会を増やしたり、学力向上に関する資料集を活用したりする。 ・教科書以外の長文教材を活用し、長文を読む活動を多く設ける。	・ペアやグループでの活動から、全校集会や縦割り班活動へと、表現の場を広げていく。 ・学力向上に関する資料集を積極的に活用し、学習の定着を図る。	・人権集会や縦割り班活動の時間を定期的に設定したことで、自分の思いや考えを全体の場で表現できる児童が増えた。 ・学力向上に関する資料等を朝活や家庭での学習に活用することで、教科書以外の文章や問題を読んだり、考えたりすることに慣れてきた。	・縦割り班活動や集会活動をさらに工夫し、自分の考えを全体の場で表現する力を育てていく。 ・紙媒体だけでなくタブレットで長文を読む機会を増やす。 ・学力向上に関する資料集を効果的に活用し、学習の定着を図る。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○隙間時間に、進んで読書をしている。 ○高学年では、自主学習を毎日行うことにより、何を学ぶのかを自分で考えて取り組むようになった。 ●自分から進んで課題に取り組むことができていない児童がいる。	・各教科の学習に、主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。	・全校で個々に応じた自主学習を進め、主体的な学びを全学年で伸ばしていく。 ・タブレットを自主学習に活用する。 ・読書の幅が広がるように、図書館サポーターの力も得て、教科書の単元ごとに関連する本の並行読書をすすめていく。	・移動図書館への予約システムも活用し、教科書に関連する本を読むことができる環境を設ける。 ・自主学習コーナーを設置して、互いのノートにコメントを書き合うことで、主体的に取り組む意欲を育てる。	・移動図書館などを活用し、関連図書を教師が選んで、読む環境を整えたが、自発的に読むとする児童が少なかった。 ・他の学年の自主学習ノートを見ることで、自主的に工夫したり内容をよく考えたりする児童が増えた。	・並行読書への意欲や関心を高めるための工夫をする。(家庭学習・朝の読書に取り入れる等) ・自分の課題(苦手な内容や復習が必要なこと、新しく学習したこと等)に合った自主学習ができるように、自主学習についての指導を継続する。

## 令和4年度 学力向上ロードマップ

